

【ねがいましては】

平成22年1月6日

KYOWA SCHOOL

第230号

「どんぐり」

よく深夜ラジオから勉強させられます。明け方4時から流れてくる「こころの時代」(NHK)には感心させられるばかりです。「本によって人は作られる」と題し、資生堂 名誉会長 福原義春さんのお話でした。だんだんと惹かれてゆくうちに、すっかり眠気もなくなります。

ひと一人は、たった一度の人生のみ味わうことができるが、本はそんな人生を数多く体験することのできるもの、よし読んでやるといって意気込んで読むよりも、読める時間に刻みながら読むほうがいい・・・などなど。

で、80%の記憶しかないのですが、世界的にベストセラーになっている本があるそうです。

見渡す限り丸坊主化した山々、そこへドングリの実を植えてゆく、やがて芽が出、緑が茂る。すると保水効果が加わるため川が流れる。水のあるところには人々が集まり暮らすようになる。(ご存知の方はお知らせください)

なんとドングリの実が人々の幸せを実現することになります。これぞ学びの極致ではないか、寝ながらうなづくばかりです。

子どもたちが学ばなければならない大きなもの・・・生命力です。「よし、生きてやるぞ!」という前向きな心を宿す。今の子たちに、いや、子どもたちだけではない、この今の社会に生きる方たちの多くに、「よし、生きてやるぞ!」という気概が薄らいでいるように感じます。お母様方であれば『子育て』、お父様方であれば『仕事』?

子どもたちの学校に対するイメージを簡単に表現すると、プラス、それともマイナス・・・。誰もがマイナスと感じていると思います。

全員同内容のものを一定の時間に入れる。優劣をつけ競わせる。・・・教科書。

たしかに子どもたちは勝ち負けにとってもこだわりを見せます。保育園時代、幼稚園時代から、何かにつけ勝ち、負け・・・。遊びの中にみられる勝ち負けは、その場限りの『生きてやるぞ』の表現。しかし、こと学校生活での勉強ともなると、その場限りでは済まなくなります。結果に親が登場するためです。ほとんどの子は、親のそんな意外ともいえる反応に驚きを覚えます。デリケートな子は自分を失い、迷走を始めます。こころはパニックになります。それがひとたび心に植えつけられ、ちょっとしたことでそのシーンがすぐに蘇ります。トラウマというものです。

さて、ドングリです。ドングリが人々の幸せにまでたどり着くには、さまざまなプロセスを経る必要があります。緑で覆い尽くされた山々の保水効果、そこから湧き出る水には多くのミネラルが溶け出ており、それが海にまで達すると、プランクトンたちの生命力の源となる。やがてプランクトンたちを追い求めて魚たちが集まる。魚を求めて人々が集まる。生命でみなぎる場が広がってゆく。

そこまで行きつく過程には、国語・算数・理科・社会・図画・音楽・体育すべての要素が入り混じっています。というより、教科に分けてしまうことが不思議に感じられます。

ことば(国語)を介さなければ情報は伝達できません。川はどのくらいの速さで流れているか(算数)、その周辺にはいくつもの植物、昆虫、動物が生息します(理科)。川沿いに暮らす人々はどのような暮らしをしているのか(社会)。連なる山々は、ひとびとに美しい景色として受け入れられます(図画図工)。川のせせらぎは、人々の心にメロディーを連想させます(音楽)。実際に現地まで出かけ、山の頂上を目指します(体育)。

今紹介したそれぞれの教科すべてに、子どもたちの生き生きと跳ねまわる姿が連想されます。後ろ向きな気持で時間を過ごす子のイメージはありません。テストのイメージも出ません。競争のイメージも出ません。成績のイメージも出ません。「とにかく生きてやるぞ、生きて生きて生き抜いてやる。」という勢いが感じられます。

どんぐりから何が学べるのか、ある子は人々の幸せが、さまざまな生命によって支えられていると感じるかもしれません。ある子は、幸せはお金だけを追い求めることではないと感じるかもしれません。またある子は、どんぐりのほかにも幸せにつながるものはないのかと、想像をめぐらすでしょう。その気持ちに100点満点が宿っています。それで充分だと思えます。

既存の学校であつたら、それを具体化させようとしします。作文や新聞などです。ここで子どもたちの気力は萎えます。なぜならその先に評価が待ち受けていることを誰もが察知します。暗い気持が子どもたちを覆います。

私は思います。明日は何を学ぼうかな・・・。明日は何を作ろうかな・・・。明日につながる『学び』を子どもたちに提示したい。それが真の先生というものではないか。『義務』につぶされながら生きている子たち、同様に押しつぶされている先生方、これが真の教育の現場なのだと自信を持って語れる先生はどれだけいらっしゃるのか。

新年を迎え、私の決意は益々子どもたちの心に根差したものになりそうです。

自分を失ってとんでもない答えを作り出す子、計算問題1題解くのにも30分近くかかる子、向かつてはいるものの、ある心の壁から先へはどうしても入れない子。そのような子たちすべてが、自由に飛び跳ねることのできる学びの場を作ってまいりたいと思います。こどもたち・・・ありがとね!